

越前町の結果

1 はじめに

この記事は、本年度実施された全国学力・学習状況等調査における越前町の子どもたちの概要をお知らせし、子ども一人一人の成長のために、生活習慣や学習習慣をより良いものにするためにまとめたものです。

2 調査の概要

調査実施日 : 令和7年4月17日(木)

調査対象 : 小学6年児童(138名) 中学3年生徒(165名)

調査内容 : 「教科に関する調査」

・国語、算数・数学、理科

・「知識・技能」と「活用」を一体的に問う問題を出題

「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」

・児童生徒に対する質問

・学校に対する調査

留意点 : 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること、また学校における教育活動の一側面にすぎないものであり、序列化や評価を目的としたものではありません。

3 教科に関する調査結果

平均正答率(中学校理科はIRTスコア)は以下の通りです。ただし、全国(県)と比較した町の結果は、以下の通りです。

+3.1%(中学校理科は11点)以上の場合 . . . 「◎」上回る

±3%以内(中学校理科は±10点) . . . 「○」同程度

-3.1%以上(中学校理科は-11点以上) . . . 「△」下回る

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
福井県との比較	○	○	○	○	△	○
全国との比較	◎	○	○	○	○	◎



小学校国語

- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができる。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- ▼目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つける力が不足している。

中学校国語

- 自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができる。
- 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。
- ▼文脈に即して漢字を正しく使う力が不足している。
- ▼文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える力が不足している。

●《優れている要因として》

国語科では、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力の育成に向けた学習が行われています。今年度は特に、小学校の記述式の問題全般においてよい傾向が見られました。

要因としては、教科書に書かれている文章が、分かりやすかったり説得力があったりするのなぜなのか、各要素に着目しながら様々な視点から読み解き、またその要素を実際に取り入れながら文章を書く活動に、低学年から丁寧に継続して取り組んでいるためであると考えられます。

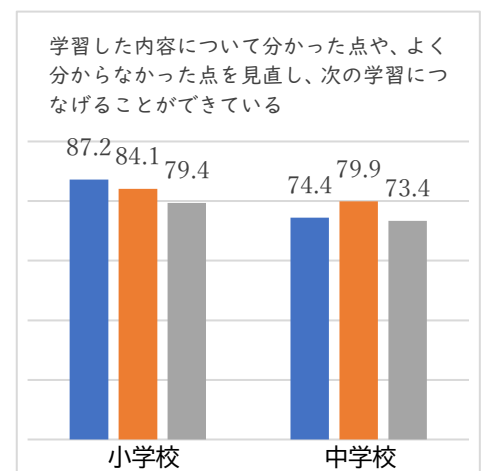
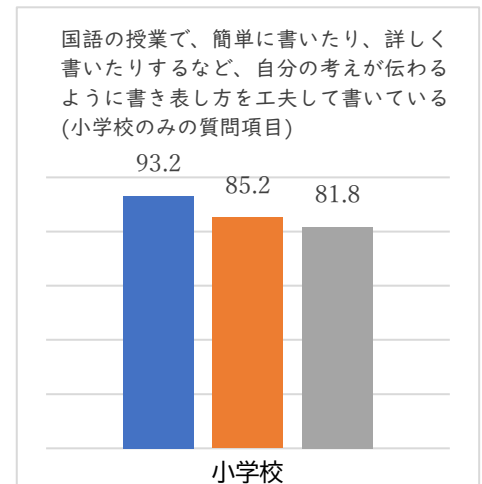
▼《今後の課題》

授業者は、各単元を通して育みたい資質・能力を正確に把握し、それを念頭におきながら単元構想を練り、毎時間の授業づくりを行うことが大切です。また、それらの資質・能力について児童生徒と共有し、毎時間、子ども達がそれを意識しながら学習に取り組めるよう工夫するなどして、主体的な学び手を育成することも大切です。

児童生徒・保護者の皆さんへのアドバイス

各単元の学習を通して身に付けたい資質・能力は、教科書の中に明記されています。小学校の教科書には主に「たいせつ」のところ、中学校の教科書には主に「目標」のところに書かれています。これを意識しながら毎日の授業や学習に取り組みしましょう。資質・能力をよりよく身に付けることにつながります。

■越前町 ■福井県 ■全国 数値は%





小学校算数

- 角の大きさについて理解している。
- 異分母の分数の加法の計算をすることができる。
- ▼ 数直線上で、1 の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉える力が不足している。
- ▼ 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す力が不足している。

中学校数学

- 相対度数の意味を理解している。
- 必ず起こる事柄の確率について理解している。
- ▼ 素数の意味を理解する力が不足している。
- ▼ 一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求める力が不足している。
- ▼ 総合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善する力が不足している。

● 《優れている要因として》

問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えたり、どのように考えたのかについて説明する活動を行ったりして、算数・数学の学習に粘り強く取り組んでいる様子が見られます。

▼ 《今後の課題》

小学校では、数直線上の分数を捉えることや、百分率について倍を使って捉え直して表現することに課題が見られます。

中学校では、数学の用語の意味の理解や、あらかじめ書かれている図形の証明を評価・改善することに課題が見られます。

児童生徒・保護者の皆さんへのアドバイス

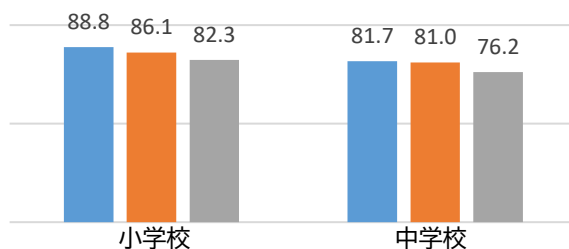
普段から、授業で学んだことが日常生活のどんな場面で使えるかを意識してみましょう。

意味や表し方の理解を深めたり、数量の関係を正しく捉えたりするためには、言葉や図、式を用いて考えることが大切です。数直線を用いて数の大きさを捉えたり、数量の関係について言葉や図、式を用いて説明したりしましょう。

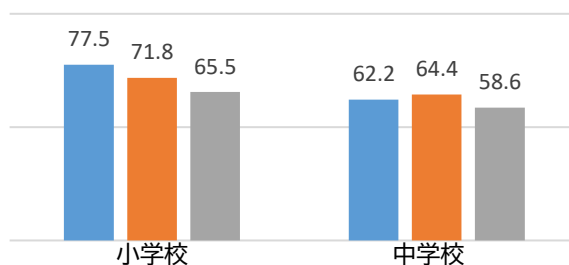
「もし〇〇だったら？」と条件を変えてみたり、友達の解き方や証明を見て別の視点で証明できないかと考えたりしてみましょう。

■ 越前町 ■ 福井県 ■ 全国 数値は%

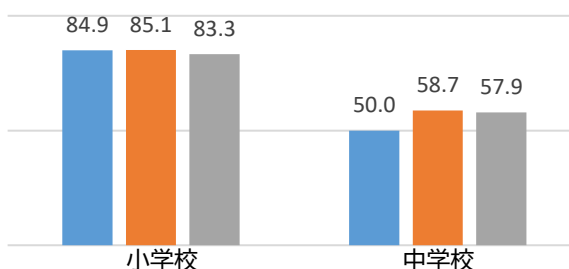
問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている



授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている



授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている





小学校理科

- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができる。
- ヘチマの花のつくりや受粉についての知識を身に付けている。
- ▼ レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現する力が不足している。
- ▼ 水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現する力が不足している。

中学校理科

- 探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目したふり返りを表現することができる。
- 実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈することができる。
- ▼ 生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付ける力が不足している。
- ▼ 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現する力が不足している。

● 《優れている要因として》

予想や仮説を立てて観察や実験を行ったり、調べる過程や、自分の学びの深まりについてふり返ったりして、理科の学習に探究的に取り組んでいる様子がうかがえます。

▼ 《今後の課題》

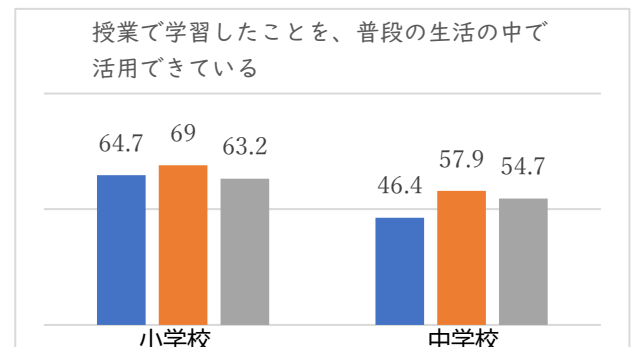
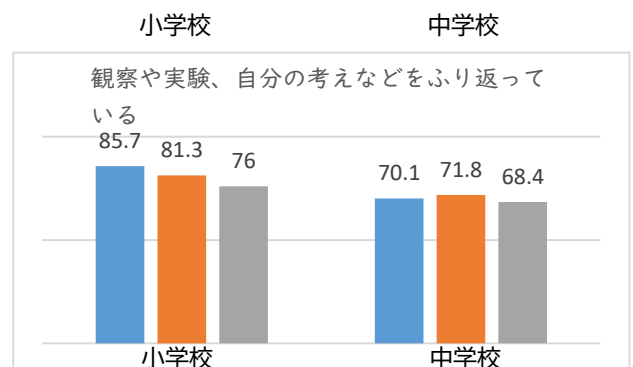
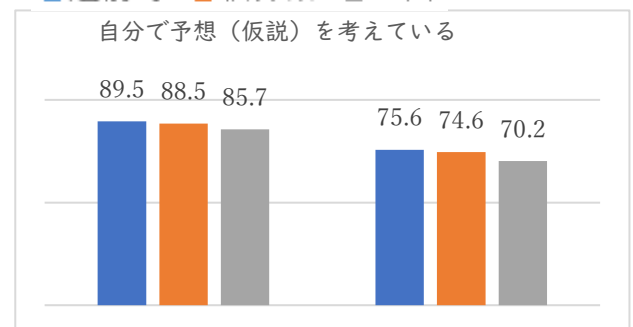
小学生では根拠ある予想や仮説を立てたりすること、中学生では知識を概念として身に付けることに課題が見られます。また小中学生とも、理科の見方・考え方を働かせながら問題を見いだしたり、自然事象と実験結果を関係づけながら考察したりする力をつけることに課題が見られます。

児童生徒・保護者の皆さんへのアドバイス

まずは、「どうしてそうなるの?」といった疑問を大切にしましょう。日常の疑問を問いに変え、観察・実験を通して科学的に探究する姿勢を育むことが重要となります。

また、概念の理解を深めるためには、単なる暗記ではなく、例えば「水の状態変化」は料理や天気と関連づけて理解するなど、「この知識はどんな場面で使えるか?」を考えるようにしていきましょう。

■ 越前町 ■ 福井県 ■ 全国 数値は%





生活習慣や学習環境等に関する質問調査結果より

(1)越前町の取り組み

令和7年度の越前町の学校教育目標は昨年度と同様、「すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」です。

令和6年度は、目標の実現に向けて「個性を発揮し、協働する」「成長を支える」をキーワードに、次の4つの取組を柱として、学校教育の質の向上に取り組みました。

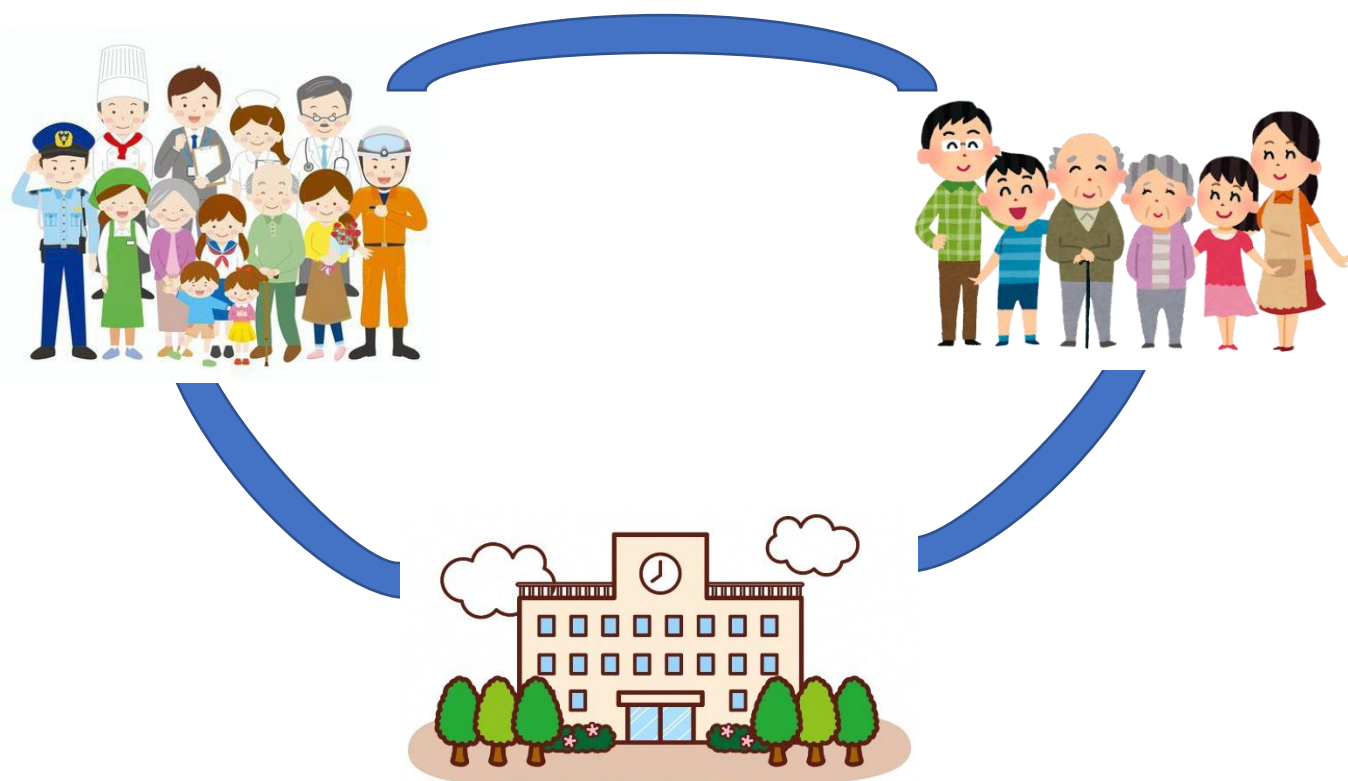
【個性を発揮し、協働する】

- ① 確かな学力の育成
- ② 学びの連携

【成長を支える】

- ① 学校の教育力の向上
- ② 魅力ある学校づくり

今年も越前町では、全国学力・学習状況調査における「児童・生徒質問紙」「学校質問紙」の結果から見てくる子どもたちや学校の姿から昨年度の取組をふり返り、検証し、改善するサイクルを推進します。



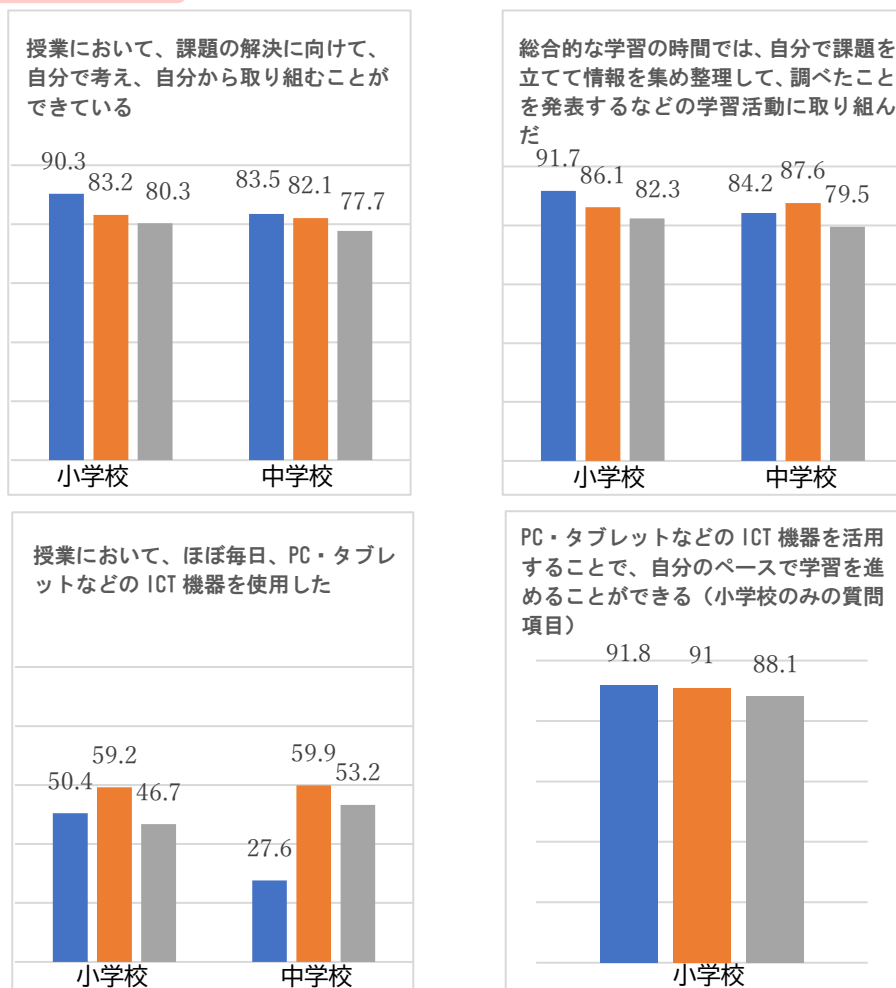


(2)取組の検証

【個性を発揮し、協働する】

① 確かな学力の育成

■ 越前町 ■ 福井県 ■ 全国 数値は%



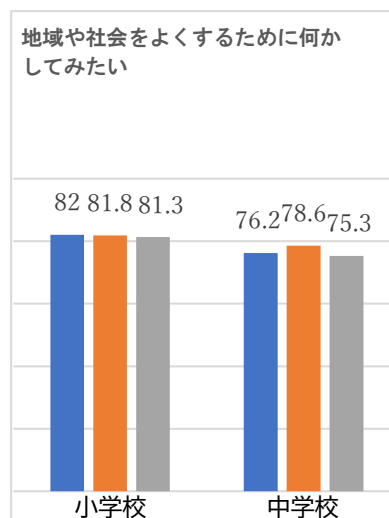
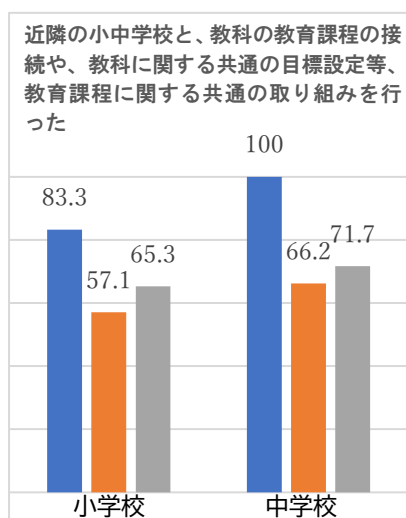
越前町では「確かな学力」の育成のために、「ねらいを明確にした授業づくりを基とした学習指導要領の確実な実施」「学ぶ意欲や自らの学習を調整しようとする姿を引き出す授業づくり」「目的と効果を吟味したICTの活用推進」を重点項目として掲げ、取り組みました。

質問紙調査の結果から、越前町内の児童生徒の授業に取り組む態度はおおむね主体的であると言えます。また総合的な学習の時間においては、自ら調整しながら学習に取り組んでいる様子がうかがえます。

一方で、昨年度の調査においても課題がみられた「ICTの活用」に関しては、今年度も課題が見られます。「PC・タブレットなどのICT機器を活用することで、自分のペースで学習を進めることができる」と答えた町内の小学6年生の割合は9割を超えています。個々人に資質・能力の違いがあっても、ICTを活用することで、一人一人のペースに合わせた学び方が可能になるということを、子ども達は実感していることが分かります。今後も引き続き、教職員間で、授業中や学習指導におけるICTの有効活用についての研究を深めるなど、改善に向けて取り組んでいきます。

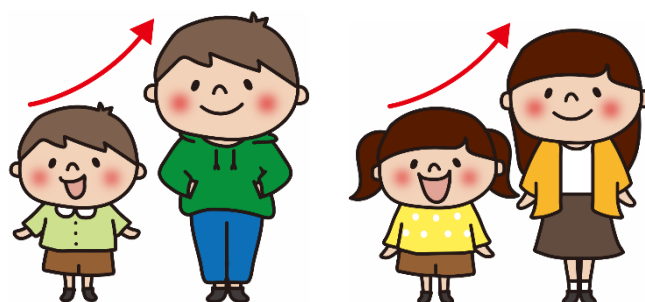


②学びの連携



「学びの連携」を推進するために、「幼児教育から小学校教育への接続および小中連携、中高一貫教育推進」、「地域に主体的に関わり、貢献しようとする心を育むふるさと教育の推進」を重点項目として掲げ、取り組みました。

今年度、越前町では、令和6年度までの取り組みを引き継ぐ形で、「探究的な学びのあるふるさと学習」の充実に取り組んでいます。長期的な展望をもちながら、学校間はもちろん、地域との連携も深め、ふるさとの未来と自分の将来を重ねて思い描く力の育成を図ります。

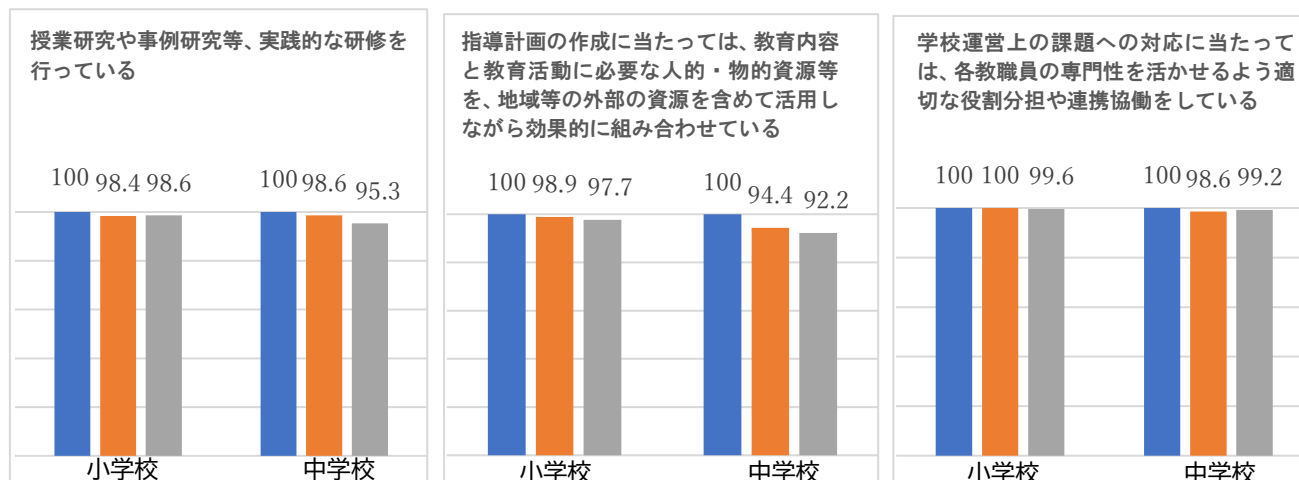




【成長を支える】

① 学校の教育力の向上

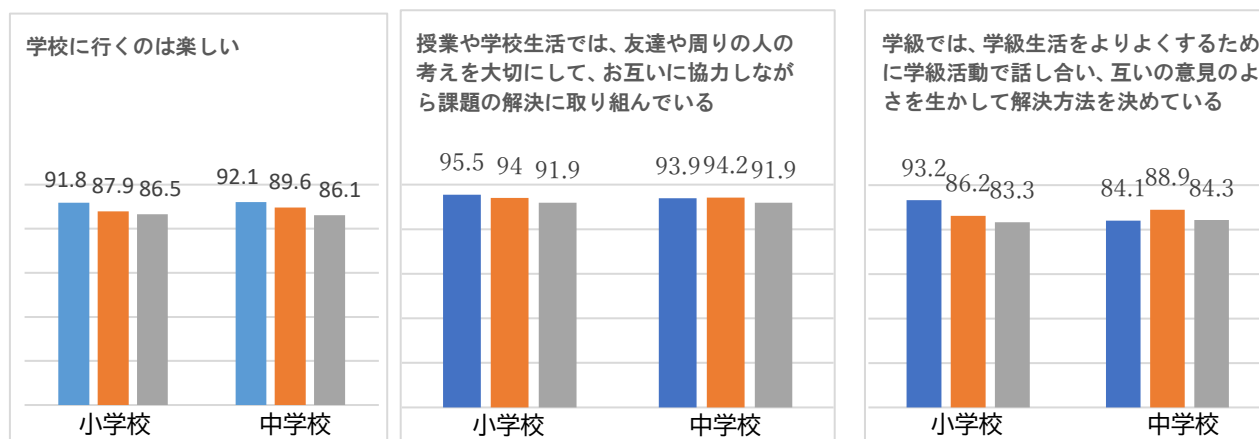
■ 越前町 ■ 福井県 ■ 全国 数値は%



学校の教育力の向上を図るために、「協働性を生かした学び合う組織づくりとカリキュラム・マネジメントの推進」「健康で生き生きと働き、教育の質を高める環境づくり」を重点項目として掲げ、取り組みました。越前町内の小中学校において、どの項目も良好な結果となっています。今後も引き続き取り組みを進めていきます。

② 魅力ある学校づくり

■ 越前町 ■ 福井県 ■ 全国 数値は%



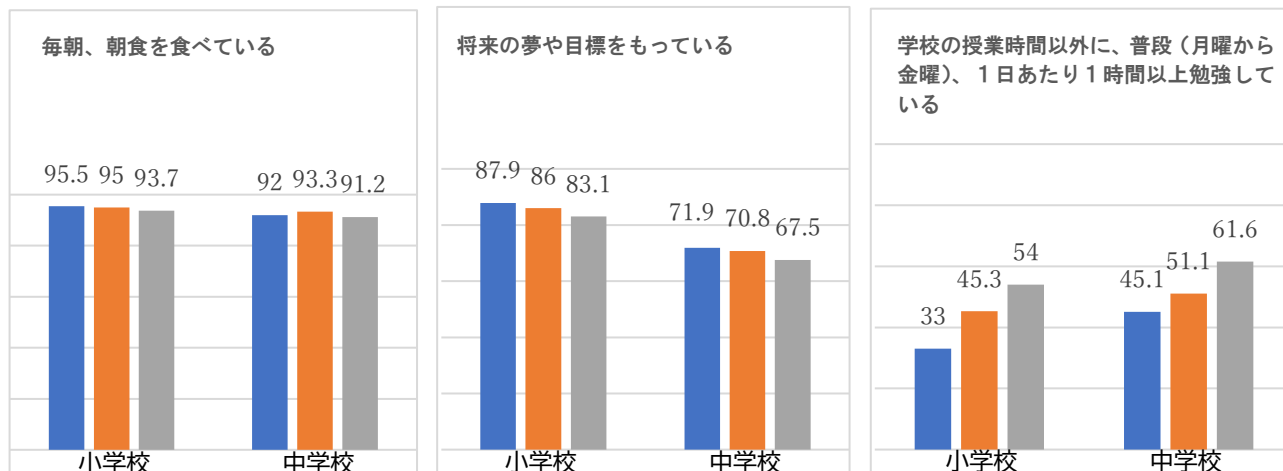
魅力ある学校づくりに向けて、「どの児童生徒も『分かる喜び』や『学ぶ意義』を実感できる生徒指導の4つの視点を働かせた授業づくり」「小中9年間を通して取り組む『居場所づくり』『絆づくり』」を重点項目として掲げ、取り組みました。児童生徒が「自己決定」する機会を設け、「自己存在感」「自己有用感」が得られやすい学習活動を取り入れ、それらの学習活動を通して「共感的な人間関係」が築けるような、「生徒指導の4つの視点を働かせた授業づくり」や、児童生徒の民主的で自治的な活動による「よりよい学級・学校づくり」を通して、誰もが安心して学ぶことのできる魅力ある学校づくりの推進を今後も続けていきます。



(3)保護者・地域の皆様へ

家庭における生活・学習状況について

■越前町 ■福井県 ■全国 数値は%



朝食を食べることをはじめ、子どもたちの基本的な生活習慣は、心と体の健やかな成長に欠かせません。また、家庭において勉強をする時間が長い児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。しかし、越前町の児童生徒の学習時間は、県や全国と比較すると短いことが分かります。学習内容の定着、学力向上のために、家庭における学習時間の確保をお願いします。

将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合は、昨年度と比べると、町・県・全国、共に数値が上昇しました。最も身近な大人である保護者と、将来の夢や目標、生き方について語り合う時間は、心身ともに急激な変化を迎える小中学生にとって、不安を取り除いたり、未来に希望を見いだして前向きに努力したりするために必要な時間です。家族の対話を通して、子ども達が夢や目標をもてるよう、ご支援よろしくお願いします。

急激な社会の変化に主体的に向き合い、多様で豊かな可能性を開花させ、自らの人生を舵取りする力を育むためには、家庭・地域・学校が協力し、生活や学びの質を高めていくことが大切です。

今後とも越前町の教育にご理解、ご協力をよろしくお願いします。